

平成26年度 弘前市市民評価会議議事概要（第3回）								
日 時	平成26年11月18日（火） 15時00分～17時07分							
場 所	弘前市役所本館4階 第二委員会室		傍聴者 2人					
出席者 (11人)	委員 (7人)	村松委員、一戸委員、新堀委員、田澤委員、 清野委員、佐藤委員、相馬委員						
	事務局 (4人)	経営戦略部長、行政経営課長、行政経営課長補佐、 主幹、総括主査						
	その他	—						
会 議 概 要								
1 開会								
2 案件								
(1) アクションプランの評価について								
【約束3－（1）の評価について】								
<p>○委員</p> <p>昨年の自己評価では妥当であると判断したのですが、生活環境については、上を見たら限がないので、これはこれでいいのではないかとも思います。カラス対策なんかもありますが、いなくするということもできないでしょうから、生活環境自体はよろしいのではないでしょうか。</p>								
<p>○委員</p> <p>間口除雪支援事業について、実施町会も増えてきているのはすばらしいと思ってみていた。今後は、町会数が増えるのもいいが、各町会での実施回数が増えるということも大事ではないかと思っている。</p>								
<p>○委員長</p> <p>数値が上がってないところとして、中心市街地活性化のところで目標に比べて数値が落ちている。</p> <p>例えば、五所川原のエルムや柏のイオンに行くという市民が多いと聞く。弘前市の土手町や駅前では駐車場がなく、あっても有料ということで、その点が大きなネックになっているのではないか。街を散策するにしても、駐車料金を支払ってまでという人は少ないのではないかとも思っている。</p> <p>賑わいを復活させるという点では戻ってはいないので、無料の駐車エリアがないのが問題ではないかというところを考える必要がある。</p>								

### ○事務局

市の直接の事業ではないが、ここ2年くらい、土手町のスカイパークでは、無料の時間帯を設定しており、土手町の活性化につながったというものもある。

### ○委員

中心市街地の駐車場無料化は当初はそれなりに効果があって、従来よりも利用者が無料の時間帯以外も増えて、収入も増えたが、スカイパークのほかに、中三と土手町立体駐車場にも拡大したところ、今まで各商店街の店舗が駐車券を安く契約で買い入れしていたが、どんどんキャンセルになって駐車場の収入が減ってしまったということもある。これは良くないということで今年の7月に無料化は終了した。やはり地元の商店街の皆さんの意識もないと実施しても駐車場の収入が減る状況になってしまふので難しいところである。

### ○委員長

駐車場の経営上難しいという点はあるが、無料の駐車場スペースを確保することの賑わいに与える効果があるようなので、無料の駐車スペースが必要で確保するための今後の方策を考えてもらうことを要望したらどうでしょう。

### ○委員

中心市街地活性化については、市の民間事業者への支援は旧ジョッパルも含めしっかりしているが、それ以外の市単独の事業については公的ハードのメニューとしては薄いのではないかと思っている。八戸の「はっち」のような市のハード事業とか、1時間まで無料の駐車場があつてもいいと思っている。

### ○委員

弘前の良いところは五所川原のエルムのような大型のショッピングモールがないところだと思っている。仮に、弘前に出来てしまえば更に空洞化につながる。

また、土手町の駐車場は、有料でいいのではないかと思っている。食事や買い物をして無料のスペースに駐車して、いたずらや事故が起きるより有料の方が良いという意識を植え付けることが必要である。あれもこれも無料であれば際限がなくなってしまう。

弘前の場合は、中型のショッピングモールがある方が、周りにも波及効果があつてその程度でいいのではないかと感じている。

### ○委員

駐車場の件については、2~3年前には行政で駐車場マップを作成していたかと思う。それを配布して利用を促していたのであるが、それが無くなつたのではないか。

それから、弘前には大きなショッピングモールがないので、土手町と駅前との動線をつなげる取り組みがないと、通行量の増加など、街の活性化にはつながらないのではないかと思っている。

### ○委員

都市計画の担当課で社会実験としてライドオンパークトやトランジットモールなどを実施しているが、街中の通行量を増やすために、現実的な計画がないでうまくいっていなかった点もある。桜まつりでの誘導というところではうまくいっている部分もあるかと思うが、普段街中を歩くうえでは、現実的な取り組みになってない。市として、少なくとも、この地区はこういうエリアだというグランドデザイン的なプレゼンテーションを市民に示すことがひとつの役割であり、そうすれば、民間もその方向性に合わせて整備していく。街の街路がどうのこうではなくて、街の機能をこうするべきという計画があってもいいと思う。

○委員長

全体のまとめとして、生活環境全般については、自己評価の方向で進めでもらいたいということと、賑わいが戻ってないということを記述してもらい、それを解消するために駐車スペースや買い物客の動線という、街全体のグラウンドデザインといったものもう一度考え直していかなければ、個別の対応だけでは、賑わいの回復、あるいは維持に結びついでいかないとまとめることとしたい。

【約束3－（2）の評価について】

○委員

前年度も自主防災組織の組織率が、青森県自体が防災の意識が薄く、全国でも下位で弘前も同じだということだったが、今回は、自主防災組織数が増えてきて、平成22年度が5団体で現在35団体になったというところは数字として出てきているので評価すべきであると思う。

○委員

自主防災組織は郡部の方で進んでいる。なぜかというと、協調性、助け合い精神が多い。私の町会もそうですが、何かあるとテントやだるまストーブとか皆持ち寄って、公民館などに集まってくる。しかし、旧市内は特に団地化の影響などもあるでしょうがそういういった地域のつながりが薄い。根本的に人とのつながりを強化する取り組みがないと、難しいのではないかと思う。

○委員

街中の人たちは危機感を持っていない人が多いということではないか。

○委員

恐らく消防団組織も高齢化が進んでいるのではないか。郡部では若手も無理やり入られて入ってみたら意外と良いということになる。サラリーマンと農業者の違いもあるし、小さい頃から意識を持たないと難しい面がある。それと弘前は災害が少ないということがあるのでないか。10数年に1回とか災害が起きてその規模も大きくはない。

○委員長

どこに備蓄されているとか避難所場所はどこかなどをきちんとPRして使い方などの講習会を開催していると思うが、スピードを高めて早く自主防災組織をつくっていただきたいという要望をしてはどうか。

○委員

私は主婦なのでごみのことが気になっている。弘前は青森県のなかでとてもごみの量が多いということでショックを受けた。弘前はごみに関してきちんとしている地域だとと思っていたが、未だに改善されてない。新しい総合計画でも取り組んでいくとなってるのでしっかり取り組んでもらいたい。

○委員

ごみは出したらお金を徴収すれば減るし、最終的にはそうなっていくのではないか。

○委員長

自己評価の2ページの課題に、ごみ排出量・リサイクル率とも県内で下位に低迷していて限られた財源のなかで抜本的な解決策を見出すのは困難であると書いているので、ごみの減少に向けて、例えば、有料化を方策として出していいものか。まず、この問題の重要性を深く捉える必要があるのではないか。

○委員

どこかの市で紙おむつをリサイクルしたら、ごみの経費が何十パーセントも削減できたということを聞いたことがある。

○委員

ごみの問題が出ているが、どうしたらごみを減らせられるかといったことを専門に検討するワーキンググループを作ってもいいのではないか。

○委員長

ごみの問題は、有料化や紙おむつのリサイクルが話題となり、全体としてごみの総量を減らすためのワーキンググループとか協議会を作って対策を練るグループを作るべきではないかという意見でまとめたい。自主防災組織については、増加傾向にあるので、更にこの方向で進めて欲しいということとしたい。スマートシティの再生可能エネルギーについてはいかがでしょうか。

○委員

太陽光発電は、私の住む田舎でも始まっているがいま買取制度が止まっている。

○事務局

環境事務組合では、ごみの焼却によって発電をして売電しており、各構成市町村のごみ処理の負担金をいくらかでも下げることに効果があるようである。電気の買取制度はそういった大規模な売電が出来なくなるような話で、一般家庭はまだ続くと思っていた。

また市では新築・改築する学校施設には太陽光発電設備を設置してきている。

○委員長

市のいろんな施設はスマート化が進んで街灯もLED化して進んでいる。

方向性としては、再生可能エネルギーの利用を増やすという方向でやってもらうということで、地熱発電とか温排水の利用は実験段階なので、実験結果を見ながらということにしたい。

【約束4－（1）の評価について】

○委員

前年度の評価が妥当ではないということになったものですが、そこで一番問題になつたのは、学童保育について満足度が低かったところだったと思うが、今まで夕方の5時半に終わっていたのを6時まで延長しことは評価できると思う。ただ未だ満足している人が少ないということは、時間だけが問題なのかということにもなる。何に対して満足していないのかわからないと難しい。学童保育で指導員の方がどのように子供に接しているのか、単に預かりのための学童保育になっていないか、学童保育に行って良かったと親子そろって思える学童保育にすることと、時間的な対応をしないと満足度に現れないのではないかと思う。

○委員長

満足度を指標にすることの難しさであると思う。満足度は要望が高まると下がるので、欲求が満たされて次の欲求が出てくると満足度は上がらない。満足度を指標としたことの難しさであると思う。満足ではないのであればその理由をアンケートで答えてもらうような原因を探る設問であればいいが、新しい総合計画でもアンケートの満足度を指標にしている。

全体として個別の政策は進んでいることを評価することが必要であることと、市民ニーズが経済的支援に集中しているということも、満足度を決める大事な要素だと思う。

○委員

子育てについては、満足度を指標にすることの難しさもあるでしょうし、最終的な目標は、関連指標にもある合計特殊出生率、出生数を上げるということであると思う。行政側が個別施策の自己評価をAというのは市民から見たら乖離があって、目指すものが何なのか分かり易くした方が市民は納得すると思う。出生率が下がっている中で、ほとんどの個別施策が自己評価Aというのであれば、市民は落胆してしまうのではないかと思う。

○委員長

評価する度に個別施策は進んでいるのに目指す姿に向かっているか分り難いという議論があった。ここの「めざす姿」は最終的に出産意欲が向上するということである。はじめは合計特殊出生率を設定していたが、5年に一回しか数値が取得できないというこ

とでやめた。出生率であれば弘前市は女子学生が多いので他都市と比べると低くなるかもしれないがそれを維持するとか上昇させるとかということで、めざす姿の成果指標を数値化した方が良かったのではないか。

#### ○委員

時代の流れとして、核家族化、晩婚化の問題がある。私たちの年代では20代前半で結婚したが、今は30代になってもなかなか結婚しない人もいる。子育てに欠かせないのは、企業の女性、男性従業員の子育てに対する考え方が昔と変わっているので、そういうこと全てをトータル的に考えるべきである。例えば、子育てに関して、あれも無料、これも無料というのもいいが、仕事が忙しければ利用できない。となれば、企業側の理解ということが必要である。

#### ○委員

弘前は手厚いサポートがあると感じている。まず子供を生むためには夫婦の自覚が大切であり、それを育てていくということが必要かとも思う。会社に勤めていても本人がどれだけ頑張っているか子供も見ているし、そういった本人の頑張りが大切であると思う。

楽しいイベントが多いが子供がいれば行けないこともある。結婚を考えたとき子供を産めばイベントに行けないとと思うと結婚に躊躇してしまうので、子供がいると楽しいということを知ってもらう必要がある。

#### ○委員長

全体としては、子育てに対するサポートは厚いし、それを維持して欲しいということをまとめとしたい。

#### ○委員

例えば、子育て支援をしている企業を評価するということはできないものか。

#### ○委員

子育て支援に積極的な会社を県が認証して表彰している。育児休暇を取れるようにしているとか、残業を取らなくていいようにしているとかの規定に当てはまれば認証している。

#### ○事務局

国、県の取り組みを参考に、市でも銀行と連携して、子育て支援に積極的な企業に対し、金利優遇をするという取り組みをしている。それから、移住に積極的な企業や、健康づくりに積極的な企業についても同様な取り組みを行っている。

それから、出生率、出生数というものについては、経営計画において政策の方向性の数値として置いているが、一部満足度を置いているところもあるので、今後、配慮も必要かと考えている。

### ○委員長

資料の2ページでは保育料が無料とか、第三子から保育料が無料になるとか、出産のお祝い金について書かれている。全体として経済的負担ということも大きいな要素である。行政は頑張って取り組んでいるが勤め先の協力もしっかり働きかけて欲しいという方向性と、財政的な考慮が必要であるが経済的負担も大事な要素である。

### ○委員

弘前市は小児科が、結構充実しているのではないかと思っているがどうか。

### ○委員

小児科の数は13ほどである。小児科はいろんなリスクがあるので、内科の先生は小学校に上がるころであればいいが乳幼児は診れない。人口も減っているのでこれから小児科が増えることはないとは思う。子供に対して手厚いという話も出たがそうは思わない。予防接種の導入が県内三市でも遅いと思う。例えば、出産時に婦人科に行くともらえる受診無料券が数年前まで4～6回だったものが、今12～14回となったがこの導入が県内三市の中で一番遅かった。これは財政的なものと関わりが深い。最近、西目屋村があれもこれも無料にしたというのは母集団が非常に少ないので多少無料にしても財政負担が少ないからできる。

先程の話では、イベントがあっても子供がいれば参加できないという話があるが、子育て世代の女性が対象になっている講演会を開催する際、無料託児所を設けるといった取り組みもあるので、こういうことが増えていけばいいのではないかと思っている。

いま子供の予防接種をしていない家庭も多くなっている。昔は学校でやってくれたのが個別接種になってしまった。そうならば、共働き世帯であれば、接種させられないという問題がある。年に1回予防接種週間でPRもしているが、日曜日にも出来る。何とか若いお母さんを助けてあげられればと思っている。

### ○委員長

子育ての支援はこの方向で頑張ってもらい、更に充実したものにするために医療の土日の対応を増やすとか予防接種の負担について前進させる方向で今後も考えてもらいたいということを全体のまとめにしたい。また、いろんなアイデアが出てきそうなので関係の団体や機関との綿密な話し合いを行い、連携を強化してもらいたい。

それから、企業の理解というのも勧めてもらいたいということと、経済的な負担、予防接種、出産の費用についての助成について、市民ニーズが集中しているという自己評価をしているので、これを重要な施策として、考慮して欲しいとしたい。

出産適齢期の若い女性は、一般的に38%が非正規雇用という現実もあるので、企業の問題もあるが、出産適齢期の方々の所得の向上が重要な要素になっているので、この問題が解消されないと出生率の向上には向かわないとまとめるということでいかがでしょうか。

めざす姿としては、出生率、出生数が数値化されているのが望ましかったと思ういうことも追加して欲しい。

## 【約束4－（2）の評価について】

### ○委員

ここには書かれていないことでもあるが、いまゲーム依存性、ネット依存症が大変問題になっている。一日4時間以上やっているというのが20%以上いるという全国的な問題がある。そういうしたものに対する規制ということも必要が出てくるのではないかとも思っている。市としても、強く意識して欲しい。

### ○委員長

4年間の総括として、数値をグラフで見るとあまり良くないのに、「主な取組と成果」については、成果が出たという書き方になっている。さらに、個別施策もAとなってている。現実の数値を見て、この「主な取組と成果」の書き方にはならないと思っている。

一番重要な点は、教員が超多忙状態で勉強する時間が持てないということだと思っているが、自己評価では言及していない。

教員も勉強しないと自信が持てないので勉強が出来る子供には馬鹿にされて、出来ない子供はますますわからなくなってしまう。教員の超多忙状態を解消する方策が必要だと思っている。

### ○委員

親と教師の関係が昔と変わって来ていることもある。いま子供を叱ると逆に教師が親に叱られる。そうなると教師がサラリーマン化してしまう。

あと全国的な問題だがスマホやゲームばかり子供たちがやっている。子供たちが家中でばかり遊んで引きこもりになってしまふ。農村部でも同じ状態である。

### ○委員

子供自身もいま話したことを感じていると思う。今までの担任は教えるだけだったが今度の担任は勉強の他に学ぶものがあるというようなニュアンスのことを言っている。

勉強が好きな割合とかについては、勉強が好きなのか、結果を出したいのか。テストに出てこないものに興味が持った子の場合、いくら時間をかけて勉強しても成績には反映されるものではない。例えば、成績だけを上げたいのであれば、秋田がいいので参考にすればいいと思う。

### ○委員

やはり興味が沸くような学習内容にしなければ勉強は好きにならないので、そういう意味では、先生の資質の向上、教えることに対する学習が必要だと思う。ゲームの話も、子供にやってはいけないといつても、親がゲームをやっていることもある。育てる側の親が、子供がいてもゲームをして子供に向き合っていない姿を見れば子供は育たないとと思う。子供がこのままゲームばかりしているとどういうことになるのか、しっかり見えるようなパンフレットや冊子を作るとか、参観日とか保護者が必ず集まる機会に子供への影響を直接伝えるようなことをこまめにやっていかないと恐ろしさがわからない。そういうことを弘前は先駆けて取り組んでもらいたい。それが人づくりにつながっていく

ので子供だけでなく、保護者も、子供も育っていくような人づくりをしなければならないと思う。

○委員

人づくりに関しては、次回まで繰越すこととさせていただきます。次回は、はじめに約束4－（2）を議論したいと思います。

（2）その他

〔事務局説明〕

- ・第4回会議の日程について確認。

3 閉会